

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

## II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程、後期課程において安定的に一定の修了者を輩出する。	→学位の授与数。		A			
2. 学会発表の包括的支援を拡充する。	→大学院生の学会発表回数。		B			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 入学者数が増加傾向を示しつつ安定的に推移しており、その結果、安定的に一定の修了者を輩出し後期課程進学者の増加および専門学識コースにおいては関連する企業へ多く就職することが可能となっている。
☆ 小項目 6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 特に課程博士の授与について指導報告の提出を義務化するなど制度的充実が図られ、漸次増加の傾向にある。— —修士学位の授与についても複数の教員による論文審査・口頭試問を実施している、2011年度よりその評価を成績として明示する予定になっている。(意見交換後、削除。IV. 追加記述参照)
その他	

### 《評価指標データ》

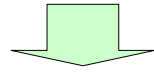
各学部における学生の進路状況  
一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数  
日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合  
在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率  
修士学位・博士学位・専門職学位の授与数  
KGPSの修士学位・専門職学位の授与数  
3年卒業の適用者数  
ジョイント・ディグリーの授与者数  
標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	2010年度('10年9月・'11年3月)の博士学位授与者(甲号3名・乙号1名)が過去に比べ増加している。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

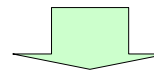
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	引き続き指導委員会よりの指導報告の機会を維持するとともに後期課程進学者の増加に努める。
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

&lt; 評価専門委員会の評価 &gt;

## 【学外委員】

○本項目でいう「教育成果」とは、中項目6.1に掲げた教育目標に照らして、目標に沿った人材育成ができたかを問うものです。小項目6.4.1の「現状の説明」では、そのような観点からの説明をもう少し詳細に記述することが望まれます。

## 【学内委員】

○全体として、求められている現状の説明になっていません。ここでの点検・評価内容の中心は、学位授与の「数」ではなく「質および適切性」であると考えます。従って、「数」以外の要素について、もう少し詳しい現状説明が求められます。

○両小項目共、小項目が求めていることに十分に答えていません。大学基準協会の留意事項に沿った説明が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。

・小項目6.4.1における現状説明は、数字をあげての説明をお願いします。

・現状説明の小項目6.4.1においては、学位取得者の数以外の要素について、もう少し詳しく現状を説明してください。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》小項目6.4.1に追加記述

「・・・研究演習を通じ指導教授によって学生の学習成果を判断し、適切な学習指導に努めている。特に研究職コースでは、定期的に指導委員会による指導を行い、進捗度の確認報告とともに学習指導の改善に努めている。」

《現状の説明》小項目6.4.2を削除、追加記述

★「学位授与方針に従って学位授与を行っている。特に課程博士の授与について指導報告の提出を義務化するなど制度的充実が図られ、漸次増加の傾向にある。博士学位取得には、米国式制度を導入しており、専門科目主分野および外国語の学力試験合格者からの申請に基づき、公開報告である課程博士候補者試験（概要報告プレゼンテーションと口頭試問）を行った後に博士学位申請論文について専門分野外副査1名を含む3名の審査委員会報告を経て、最終的に研究科委員会で審議される。学力試験、公開報告、専門分野外副査の導入などで客観的で公正な判定に努めている。これらのプロセスは履修案内などで学生に公表、周知されている。

修士学位の授与についても複数の教員による論文審査・口頭試問を実施している、2011年度よりその評価を成績として明示する予定になっている。修士論文の審査にあたっては審査委員会に専門分野外の副査を1名必ず入れることで透明性と公正性の向上をはかっている。」